

新型コロナウイルス流行前後のマイクロツーリズム意識に着目した観光客の訪問意向分析

—いすみ鉄道を対象として—

Analysis of Tourist Visit Intention Focusing on Microtourism Awareness in With/After COVID-19

—Case Study of Isumi Railway—

指導教授 轟 朝幸 兵頭 知

8012 伊藤 隆晃

1. はじめに

2020年12月に新型コロナウイルスが中国で感染が確認されて以来、世界各地で猛威を振るっている。わが国においても多くの感染者数が出たため、国内・海外旅行は規制され、人々の動きが制限された。このような状況の中、新しい取組として「GoTo トラベル」や「マイクロツーリズム（近距離の旅行）」が注目されるようになった。さらに、感染症対策やワクチン接種などにより感染者数は減少した。人の流れは新型コロナウイルスが流行する前に戻りつつある。しかし、感染症意識を持たなくてよい時代とは異なっていることや、新しい取組により、観光意識が変化していると考えられる。

そこで、「コロナ前」と「With コロナ時代」での、観光客の訪問意向の変化を明らかにする。また、新型コロナウイルスがマイクロツーリズムなどの観光意識にどの程度影響を与えているかを明らかにする。

2. 既往研究と本研究の位置づけ

西川¹⁾は、オーバーツーリズム期に生活環境が悪化するという影響を受けていた人は、新型コロナウイルス収束後の観光振興に否定的であることを示した。生活環境が悪化していた人ほど地域の魅力を満喫する傾向があり、今後の観光振興を不要と認識する傾向があることが明らかになった。

秦ら²⁾は、全国の緊急事態宣言禍の東京と43都道府県では、流出より流入の減少幅が大きいことや、平日と休日と比較すると、隣接期間での有意な差が多くみられたことから、流動の変化が起きていることを示した。

以上より、新型コロナウイルスがもたらした観光地の住民に対する意識や、都道府県間の人の流動を扱った研究が存在する。しかし、観光客の観光意識やワクチンの普及による意識の変化、「マイクロツーリズム」を扱った研究は、レビューを行った限り存在しない。

そこで本研究では、マイクロツーリズム意識と観光

地への訪問意向の関係を明らかにする。

3. 研究方法

3.1 アンケート調査

近距離の観光地域への旅行が注目されるようになったことや、1都3県に位置すること、観光を目的とした旅客が存在するなどの理由から、本研究では千葉県の地域鉄道であるいすみ鉄道を対象とした。「コロナ前」と「With コロナ時代」で訪問意向を比較できるアンケートを作成し、表-1のとおり実施した。いすみ鉄道の訪問意向を「いすみ鉄道沿線地域の観光」「マイクロツーリズムの意識」「感染症に対する意識」の3点に分類し、評価を行う。

表-1 アンケート概要

項目	内容
対象	SNS閲覧者
期間	2021年12月7日～12月31日
方法	Google Formsを用いたSNSでのアンケート調査
サンプル数	59
調査項目	いすみ鉄道沿線地域の観光 感染症に対する意識 マイクロツーリズムの意識 総合満足度 個人属性

3.2 SEM分析（共分散構造分析）

本分析には、SEM分析（共分散構造分析）を用いる。これは、観光客の訪問意向にどの要因が最も影響を与えているか明らかにでき、それぞれの要因がどの程度の大きさに影響しているのかも把握できるためである。

4. 分析結果

SEM分析を行った結果を図-1で示す。図中に示している数値（パス係数）は全て標準化推定値であり、黒数字が「コロナ前」、赤数字が「With コロナ時代」を示している。パス係数が大きいほど、その項目が大きく影響しているといえる。

図-2より、「総合満足度」に影響するパス係数を見ると、「コロナ前」と「With コロナ時代」ともに最も高くなったのは、「いすみ鉄道沿線地域の魅力」であった。

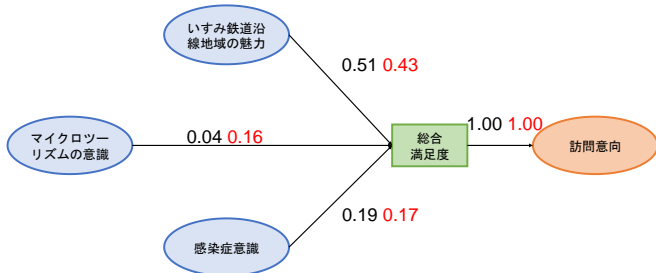


図-2 訪問意向の構造 (抜粋)

また、「マイクロツーリズムの意識」を見ると、「With コロナ時代」は0.16となり、「コロナ前」の0.04と比較して高い数値となった。このことから、観光地の魅力も重要であるが、新型コロナウイルス流行前後で、観光客のマイクロツーリズムの意識が変化していることが明らかになった。

「感染症意識」を見ると、「コロナ前」は0.19となり、「With コロナ時代」は0.17となった。このことから、感染予防対策を「意識的」にではなく「日常的」に行っているため、影響が出にくくなったと考えられる。

以上より、「コロナ前」では、「感染症意識」、「マイクロツーリズムの意識」の順であったが、「With コロナ時代」になると、同等になったと考えられる。

図-1より、「マイクロツーリズムの意識」に影響する「片道の所要時間」の係数は、「コロナ前」の0.58に対して、「With コロナ時代」は-0.18となった。「コロナ前」は、人の動きに制限がなく、遠出することが可能であったため、所要時間に対する意識があった。しかし、「With コロナ時代」においては、人の動きが制限さ

れ、観光できる箇所が限られたため、このような結果になったと考えられる。

5. おわりに

本研究では、いすみ鉄道を対象として、観光客の訪問意向分析をアンケート調査と共分散構造分析を用いて行った。その結果、「コロナ前」と「With コロナ時代」では、観光客の考え方に差は出るものの、訪問意向に影響するまでの変化がないことが明らかになった。また、新型コロナウイルスが、「マイクロツーリズムの意識」に大きく影響を与えていることが明らかになった。

今後の課題として、訪問意向として考えられる要素をより多く抽出し、観光客の意向を詳細に把握する必要がある。また、他地域・他県の観光地と比較したうえでどこを選択するか、について明らかにする必要がある。

謝辞: 本研究にあたり代表取締役の古竹孝一様、地域おこし協力隊の皆越衛様を始めとしたいすみ鉄道株式会社の皆様にご協力頂きました。厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 西川亮：オーバーツーリズム観光地における新型コロナウイルス流行後の住民の観光に対する意識に関する研究—観光との接点を有する住民を対象として—, 日本観光研究学会機関誌, Vol.32, No.2, 129-140, 2021.3.
- 2) 秦康範, 佐々木邦明, 斧田佳純, 浅野礼子, 鈴木俊博：コロナ禍における緊急事態宣言等が都道府県間流動に与えた影響の検証, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.77, No.2, 151-159, 2021.

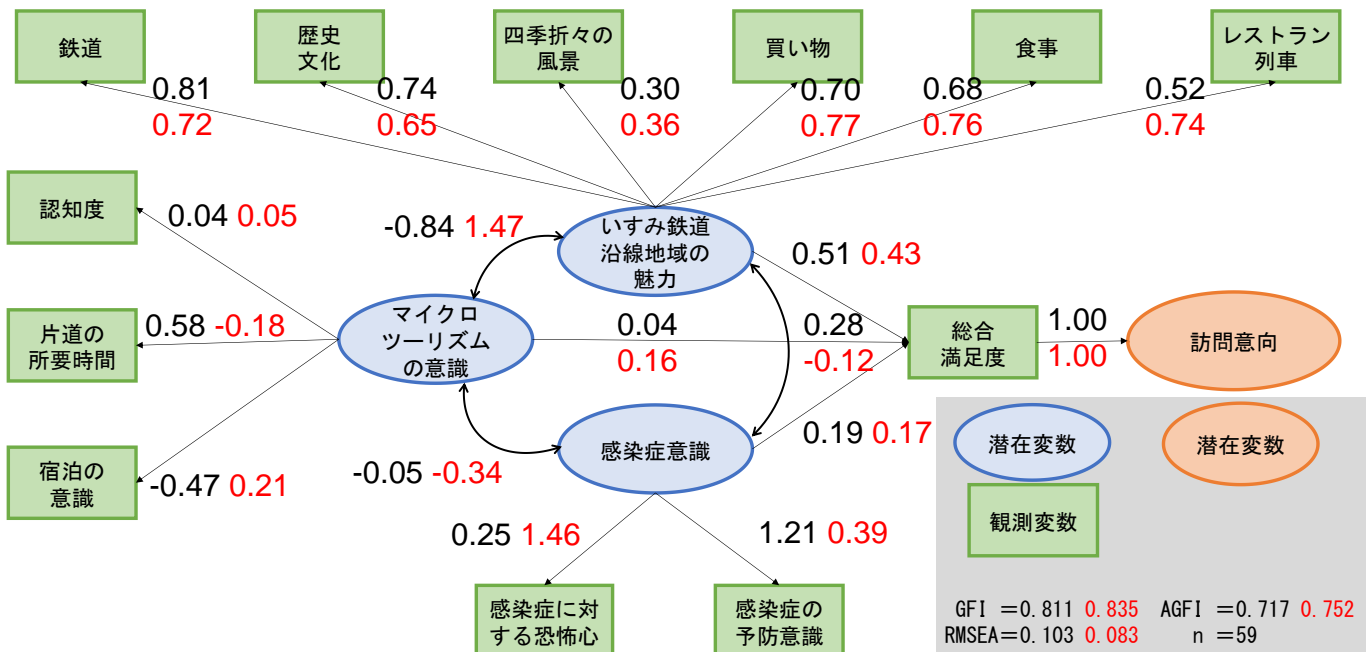


図-1 訪問意向の構造